

24年度 校内研修計画

研究主題 **思いを伝え合う子どもの育成**
～言語活動の充実を通して～

1 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

21世紀は「知識基盤社会」の時代であると言われており、アイデアなど知識そのものや人材をめぐる国際競争が加速する一方、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性が増大している。また、国際化、情報化が急速に進展する中、子どもを取り巻く社会環境とともに、教育を取り巻く環境も大きく変化し、様々な問題が生じている。

他方、OECDのPIISA調査など各種の調査から、例えば、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題があること、読解力で成績分布の分散が拡大しており、その背景に学習意欲、学習習慣・生活習慣に課題があること、自分への自信の欠如や自らの将来への不安、体力の低下といった課題があることなどが明らかとなった。

これらを受けて、平成18年12月に改正教育基本法が施行され、指針となる新しい教育の理念が規定された。さらに、いわゆる教育三法も改正され、平成20年3月には新たに学習指導要領が公布された。

昨年度完全実施となった学習指導要領は、「生きる力」の育成を基盤として、基礎的・基本的知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成をめざすとともに、「習得」「活用」および「探究」をキーワードとして学習意欲の向上や学習習慣の確立を図りながら「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成することを基本的な考えとして位置付けている。そして、今日の「教育の基調」となっている「生きる力」を3つの側面からとらえたもの――

第1は、主体的思考力と課題解決能力である。この知的な力は従来の受信型のものではなく発信型の知的な力であり、創造的知性であるとされる。

第2は、自律を図りながら他人と協調する、他人の心の痛みがわかり思いやることができる、物事や人の心の美しさに感動するなどの豊かな人間性である。

第3は、第1、第2の資質を支える健康と体力である。

を基本としながら、現代の子どもに不足しているといわれる社会性（人間関係を結ぶ力、倫理、正義感、公正な感覚など）を学校、家庭、地域社会において育てていくことが課題となっている。

「知的な力」は、「豊かな人間性」に支えられていることが大切である。温かい人間関係の中で聞き合い、話し合い、互いのよさや違いに気付くことによって、磨き合い、考えを深め、より個性的で創造的な考え方や表現ができるようになる。研究主題「思いを伝えあう子どもの育成」は、まさに、この「生きる力」を持つ子どもの育成に通じるものである。

(2) 学校課題解決の面から

諸背景や諸実態、また諸願いを受けて、本校の教育課題は、「学・心・体が調和する豊かな人間性を育む」ことであり、このうちの知(学)についての課題を次のように捉えている。

確かな学力の定着と向上を図る。

- ①「読・書・算」の基礎学力の向上、学習指導要領に基づく基礎的・基本的な知識の定着を図る。
- ②問題解決的な学習の推進により、学習意欲と主体的な学習習慣の定着を図り、自ら学び自ら考える力を育てる。
- ③言語活動教育を中心に伝え合う力を育て、思考力、判断力、表現力を培う。

(3) 児童の実態から

① 23年度CRT学力テストの結果及び考察

<観点別得点率>

観点	国語への 関心・意欲・態度		話す・聞く能力		書く能力		読む能力		言語についての 知識・理解・技能	
	本校	全国	本校	全国	本校	全国	本校	全国	本校	全国
1	58.5	71.1	67.7	70.1	88.8	81.9	71.6	66.7	97.6	92.8
2	53.5	65.7	89.8	80.2	85.5	73.8	80.6	59.3	96.4	85.5
3	72.0	73.9	75.9	74.8	58.0	53.6	59.5	49.5	78.0	70.2
4	65.8	67.5	81.7	75.6	63.2	57.3	68.0	55.1	80.3	73.1
5	70.3	69.7	78.6	76.4	58.7	53.9	51.5	47.8	71.5	64.2
6	78.4	67.5	86.6	79.8	79.0	74.2	57.5	51.9	81.7	69.0

観点	社会への 関心・意欲・態度		社会的な 思考・判断・表現		観察・資料活用 の技能		社会的事象についての 知識・理解	
	本校	全国	本校	全国	本校	全国	本校	全国
3	74.5	76.9	79.0	73.4	81.8	73.0	89.4	85.6
4	62.0	74.2	84.3	72.4	87.6	76.2	89.9	75.1
5	76.5	74.0	70.6	64.4	83.3	76.8	84.2	76.8
6	83.7	72.4	68.3	60.9	72.2	66.0	89.0	84.8

観点	算数への 関心・意欲・態度		数学的な考え方		数量や図形についての 技能		数量や図形についての 知識・理解	
	本校	全国	本校	全国	本校	全国	本校	全国
1	72.7	77.6	78.3	75.8	85.5	85.7	80.5	81.4
2	64.5	71.9	84.0	76.6	90.1	86.0	87.2	79.0
3	76.8	75.3	83.3	73.7	79.9	75.7	84.8	82.0
4	70.3	71.6	78.4	64.2	88.7	74.1	84.3	66.6
5	70.6	71.0	63.2	60.8	79.3	70.9	72.4	67.1
6	85.0	68.7	62.5	52.4	80.9	80.9	77.9	72.1

観点	理科への 関心・意欲・態度		科学的な 思考・表現		観察・実験の 技能		自然事象についての 知識・理解	
	本校	全国	本校	全国	本校	全国	本校	全国
3	80.4	82.1	68.2	69.0	83.0	81.6	89.1	83.4
4	80.1	82.2	84.0	66.6	88.1	77.0	84.1	79.0
5	82.2	75.8	84.0	80.0	87.5	81.5	87.1	79.5
6	85.6	73.9	85.6	74.3	94.2	85.7	83.9	79.3

<観点別達成状況>

観点	国語への 関心・意欲・態度			話す・聞く能力			書く能力			読む能力			言語についての 知識・理解・技能		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
1	41%	28%	31%	44%	53%	3%	91%	9%	0%	81%	19%	0%	100%	0%	0%
2	14	57	30	84	16	0	92	8	0	84	14	3	97	3	0
3	65	26	9	70	23	7	56	23	21	65	19	16	81	12	7
4	52	29	19	84	13	3	58	35	6	77	19	3	84	13	3
5	56	27	18	82	16	2	64	20	16	56	27	18	67	16	18
6	68	26	5	95	5	0	74	24	3	47	37	16	84	11	5

観点	社会への 関心・意欲・態度			社会的な 思考・判断			観察・資料活用 の技能			社会的事象についての 知識・理解		
	学年	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B
3	65	30	5	77	21	2	77	19	5	93	7	0
4	26	52	23	94	6	0	84	16	0	84	16	0
5	64	27	9	56	31	13	78	13	9	76	16	9
6	82	16	3	58	29	13	61	29	11	82	13	5

観点	算数への 関心・意欲・態度			数学的な考え方			数量や図形についての 技能			数量や図形についての 知識・理解		
	学年	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B
1	59%	19%	22%	72%	25	3%	78%	22%	0%	75	16	9%
2	38	51	11	86	11	3	95	5	0	81	19	0
3	70	21	9	88	7	5	65	33	2	84	7	9
4	55	32	13	71	26	3	94	6	0	87	13	0
5	56	29	16	47	29	24	71	20	9	69	16	16
6	92	3	5	53	34	13	68	29	3	61	37	3

観点	理科への 関心・意欲・態度			科学的な思考			観察・実験の 技能			自然事象についての 知識・理解		
	学年	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B
3	81	14	5	60	14	26	79	21	0	95	5	0
4	77	19	3	77	16	6	87	13	0	74	26	0
5	84	11	4	84	9	7	89	11	0	80	13	7
6	89	8	3	87	13	0	97	3	6	66	32	3

<考察>

- 各教科、全学年とも関心・意欲・態度を除く観点で全国の得点率を上回っており、学習内容の定着が比較的よいといえる。
- 国語の「話す・聞く」の観点では4つの学年でAが8割を超えており、AとBを足すとすべての学年で9割を超える。
- 教科や学年によって、関心・意欲・態度が全国に比べて低い傾向にある。
- 国語の「読む」の観点では学年が上がるにつれてA評定の児童の割合が低い傾向にある。
- 技能や知識・理解の観点に比べ、思考力・判断力に関わる観点で、B、Cの割合が高い傾向にある。

②通信票の評価結果から

(単位は%)

観点	学年	国語への 意欲・関心・態度			話す・聞く 能力			書く能力			読む能力			言語についての 知識・理解・技能		
		◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△
1	前	28	72	0	72	28	0	22	75	3	63	37	0	34	63	3
	後	25	72	3	28	66	6	56	41	3	66	28	6	56	41	3
2	前	51	49	0	41	51	8	33	59	8	68	27	5	54	41	5
	後	57	43	0	51	43	6	54	43	3	73	27	0	68	32	0
3	前	37	63	0	40	60	0	28	47	25	72	28	0	49	44	7
	後	37	63	0	40	60	0	28	47	11	72	28	0	49	44	7
4	前	56	44	0	34	63	3	25	72	3	59	38	3	53	41	6
	後	47	53	0	38	59	3	19	78	3	59	38	3	50	41	9
5	前	51	45	4	22	64	14	60	31	9	71	20	9	51	42	7
	後	49	49	2	42	53	4	51	42	7	44	42	14	60	31	9
6	前	100	0	0	82	18	0	24	76	0	74	26	0	79	21	0

観点		社会への 関心・意欲・態度			社会的な 思考・判断			観察・資料活用 の技能			社会的事象についての 知識・理解		
学年	期	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△
3	前	61	37	2	42	46	12	56	39	5	61	37	2
	後	61	37	2	42	46	12	56	39	5	61	37	2
4	前	50	47	3	66	31	3	25	75	0	59	41	0
	後	44	53	3	78	22	0	38	53	9	81	19	0
5	前	51	45	4	40	51	9	51	40	9	51	40	9
	後	49	40	11	51	45	4	67	29	4	47	42	11
6	前	100	0	0	32	68	0	82	18	0	55	45	0

観点		算数への 関心・意欲・態度			数学的な考え方			数量や図形についての 技能			数量や図形についての 知識・理解		
学年	期	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△
1	前	63	37	0	31	69	0	53	47	0	34	66	0
	後	50	50	0	37	50	13	66	31	3	63	28	9
2	前	57	43	0	41	54	5	68	32	0	54	46	0
	後	68	32	0	46	49	5	76	24	0	73	27	0
3	前	54	46	0	35	53	12	53	47	0	44	51	5
	後	53	47	0	35	53	12	53	47	0	44	51	5
4	前	59	41	0	44	47	9	75	25	0	56	41	3
	後	47	53	0	47	44	9	62	38	0	66	31	3
5	前	55	45	0	31	42	27	55	36	9	49	42	9
	後	60	40	0	49	29	22	60	31	9	51	40	9
6	前	97	3	0	19	68	13	39	61	0	61	39	0

観点		理科への 関心・意欲・態度			科学的な思考			観察・実験の 技能			自然事象についての 知識・理解		
学年	期	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△	◎	○	△
3	前	51	49	0	23	45	12	30	65	5	42	58	0
	後	51	49	0	23	45	12	30	65	5	42	58	0
4	前	53	47	0	47	50	3	38	59	3	53	47	0
	後	56	44	0	53	47	0	72	28	0	38	59	3
5	前	78	22	0	58	31	11	73	22	4	76	20	4
	後	69	31	0	62	24	14	53	45	2	47	51	2
6	前	97	3	0	53	42	5	32	68	0	58	42	0

<考察>

- ほとんどの学年で、前期と後期を比べると、各観点とも改善の様子が見られる。
- 算数と理科では、関心・意欲・態度で△の児童は見られない。
- 学年、教科によって関心・意欲・態度にばらつきが見られ、◎の割合が低い学年もある。
- 国語の言語事項の定着に個人差があり、△の児童が固定化している傾向が見られる。
- 国語の評価結果は、昨年度に比べると、全体的に低い傾向にある。

③研究協議会、見守り会議等での話し合い、日常の授業の様子から性格は素直で明るい。学習面においては、次のような実態にある。

- 与えられた課題にまじめに取り組む。
- 家庭学習が定着しつつある。
- 問題解決的な学習の力が身に付いてきており、学力向上も見られる。
- 思考力にばらつきがある。
- 全般的に要約して書く力・説明する力（再構築力）が弱い。
- 改善されてはきているが、授業場面での話し合い、考えの練り合いや磨き合いが不十分である。

- 様々な条件や制約に応じて記述する力が弱い。
- 学級内での学力差が著しく、下位児童への個別指導とともに、上位児童への配慮も必要になってきている。

また、休み時間等の日常生活においては、「言葉で適切に表現する力」が乏しく、自分の思いや考えをうまく相手に伝えられずにトラブルを生じる事例も見られる。

(4) 昨年度の実践における成果と課題から

- 教材提示や課題提示を工夫することにより、関心や意欲が高まり、課題意識をもって読むことができた。
- 読み取るための手立てを指導することにより、一人読みや一人調べができるようになり、正しく読み取る力がついてきている。
- 家庭学習が定着し、継続することで、一人読みの力が高まった。
- 文章全体を見通したり、構成を捉えて考えたりする力がまだ十分ではない。
- 筆者の意図を汲み取って自分の考えと比べ、考えを広げたり深めたりする力が十分でない。
- 話し合いを通して、考えを深めたり広げたりする（練り合う・磨き合う）力が十分でない。

これらの実態から、学習意欲を高め、思考力、判断力、表現力を培うとともに、豊かな温かい人間関係を築き、集団の中でともに磨き合い高め合う子どもの育成をめざすものである。そのために、国語科をパイロット教科としながら、各教科における言語活動の充実を図り、「自分の思いを積極的に言葉で表現するとともに、友達の考えを聞き、互いの良さや違いを認め、自分の考えを深める＝伝え合う」力を育てたいと考える。

2 めざす子ども像

言葉で思いを伝え合うことで、思考力や判断力、表現力を培い「生きる力」を育む子

3 研究目標

学習意欲を高め、「自分の考えを持ち、積極的に言葉で思いを伝え合う子ども」を育てるために、国語科（文学的文章の読み取り）を中心として、相手や目的を意識した言語活動について授業実践等を通して、三年次計画で明らかにし、思考力・判断力・表現力を培う。

4 研究仮説（一年次＝平成24年度）

- ①教材や教具、教材提示を工夫することにより、意欲や課題意識が高まり、問題解決的な学習が定着し、自ら学び自ら考える力の育成が期待できるだろう。
- ②各学年のつながりや系統性を踏まえながら、単元における目標や身に付けさせたい知識や技能を明確にして指導することにより、「読む」「書く」「話す・聞く」ための手立てが身に付くだろう。
- ③相手や目的を意識した言語活動の設定、充実の工夫をすることによって、自分の考えを持つとともに、互いに考えを磨き合い高め合う態度が身に付き、考えをまとめたり表現したりする力、言葉で思いを伝え合う力の育成が期待できるだろう。

5 研究内容

(1) 年次計画

年次	年度	概要
1	24	課題把握から自力解決までの学習過程における相手や目的を意識した言語活動
2	25	課題把握から交流までの学習過程における相手や目的を意識した言語活動
3	26	課題把握からまとめまでの学習過程における相手や目的を意識した言語活動

(2) 意欲や課題意識を持たせる指導法の工夫

- ①教材・教具・教材提示の工夫
- ②課題の見つけ方の指導
- ③学習形態の工夫

(3) 国語科の指導における系統性を踏まえた目標、知識・技能、言語活動の明確化

- ①「読む」「書く」「話す・聞く」ための手立ての指導
- ②用語・表現等の指導

(4) 言語活動の充実・工夫

- ①指導事例・理論的資料等の収集と活用
- ②相手意識や目的意識を持たせる言語活動

(5) 変容の確かめ（読む能力について）

- ①授業の中での評価
- ②ワークテスト及び通信票の評価結果
- ③外部テスト、諸調査の結果

6 仮説の検証

(1) 授業の中での評価

- ①教科 国語科
- ②仮説と観点との関連
 - ・教科書やノート、ワークシートへの書き込みができたか。（読む力）
 - ・読み取ったことをもとに発表や話し合いができたか。（話す・聞く・話し合う力）
 - ・相手意識や目的意識を持って、「話す・聞く・話し合う・読む・書く」活動ができたか。
 - ・学習内容と関連づけて振り返りができたか。（書く・読む力）

③方法

- ・時期 年2回（6～7月、10～11月）

(2) ワークテスト及び通信票の評価結果

- ①教科 4教科
- ②観点
 - ・国語
 - ・社会
 - ・算数
 - ・理科 } 関心・意欲・態度を含む全観点

(3) 外部テスト、諸調査の結果

①対象

- ・CRT学力テスト（全校児童）
- ・青森県学習状況調査（5年生）
- ・全国学力・学習状況調査（6年生）
- ・リベロ

②観点

- ・CRT学力テスト、青森県学習状況調査については、ワークテスト等と同じ。
- ・全国学力・学習状況調査については、A問題、B問題で評価する。

(4) その他

- ・意欲に関する児童の自己評価
- ・研究協議会における話し合い
- ・日常的な授業参観

7 研究方法

(1) 研究の基本的な構え

- ・全職員で組織した研究体制の連携を踏まえて、チーム「学力向上」を軸に、計画（p l a n）、実践（d o）、結果の考察・反省・評価（c h e c k）、改善・更新（a c t i o n）により研究活動を進める。
- ・国語だけでなく、他教科での授業実践も大切にしながら積み重ね、全職員の研修の充実を図る。
- ・チーム学力向上部員を中心に、日常的に各学級の授業参観を行い、啓発し合う。

(2) 研究授業について

- ・提案授業は全授業担当者が行う。
- ・学級担任は原則として校内研修日に設定されている水曜日を実施する。夏休み前に2学級、夏休み後に6学級行うものとし、このうち1回は要請訪問。事後の研究協議会は全体研修。
- ・学級担任以外の教員、特別支援学級担任は、自分が担当している教科の授業を行う。提案授業は5～7月の水曜日以外の日に行い、このためのブロック研は、必要に応じて行うが、事前・事後の全体協議会は持たない。参観者は授業感想を提出する。
- ・夏休み後実施の提案授業については、事前研（教材研究会、指導案検討会）を夏休み中に行う。
- ・2学級の学年は、同じ単元（教材）を時間をずらして授業提案する。

(3) 現職教育について（現職教育は全教職員を対象として全体研修で進めていく。）

- ①研究内容にかかわる理論研修
- ②ホームページの更新及びコンピュータ研修
- ③教科に関わる研修（体育など）
- ④生徒指導・安全指導に関わる研修
- ⑤外国語活動に関わる研修
- ⑥特別支援教育に関わる研修

(4) 校外研修および報告会

- ・先進校の視察、各種研修会への参加を積極的に進める。参加者は報告書を作成し、必要に応じて報告会を行う。
- ・研修会でよいと思った教具や方法などを自分の授業の中に取り入れ研究授業で提案する。

(5) その他

- ・小・中連携の一環として、尾上中、金田小の授業研究会に参加する。

8 研究組織

